

地方創生関連交付金に係る事業実施結果報告

1. 事業の名称・実績額等

①交付金対象事業の名称	次世代農業モデルプラント事業の事業自立支援と就農人材・地域資源の育成・強化		
②交付金の種類	地方創生推進交付金	③実績額	10,000,000円 (うち交付金5,000,000円)

2. 重要業績評価指標（目標値と実績値）

④当該事業における重要業績評価指標（KPI）				⑤事業終了時点における実績値
指標	目標値	目標年月		
指標1	次世代農業モデルプラント事業による生産物・加工品等の年間売上額	0（※1）	H29.3	0（※1）
指標2	就農人材等育成・研修事業等への参加者（佐用高校農業科学科等との連携分含む）	300人	H29.3	309人
指標3	次世代農業モデルプラント事業での雇用者数	1人	H29.3	8人

※1 佐用まなび舎農園の収穫開始は平成29年4月以降となり、平成28年度中には売上額がないため、目標値・実績値とも0となっているものです。なお、平成29年度の売上目標は60,000千円としています。

3. 事業の目的、内容、事業の実施結果、今後の方針等

【事業全体としての背景・目的・今後の方針等】

当事業は、地方創生先行型交付金基礎交付分の「佐用町森林資源活用事業」、地方創生加速化交付金の「学校跡地を活用した次世代農業モデルプラント事業の事業自立支援と就農人材育成」および「観光コラボによる地域特産物の育成・強化と新たな地域資源活用創造プロジェクト」のうち、特に継続が必要と考えられる事業を取り上げ、その他必要な事業を加えて「次世代農業モデルプラント事業の事業自立支援と就農人材・地域資源の育成・強化」として再編成して、事業を実施しようとするものです。

農林業を取り巻く環境は、農作物・木材の価格低迷や有害鳥獣による被害増大、高齢化による担い手の減少と耕作放棄地の増大など、近年特に厳しくなっています。しかしながら一方で、農業や林業をナリワイとしたい若年者層も一定数存在していることから、儲かる農業をモデル事業として実践し、若者が魅力を感じる新しい農林業の環境を整備することが喫緊の課題となっています。また、消費者は安全・安心で生産者の顔の見える地域産品を求めており、販売拠点施設等においては野菜・特産品等の供給不足が恒常的となっているため、次代の担い手育成を行うことが重要となっています。

そのため、次世代農業モデルプラント「佐用まなび舎農園」事業の自立支援を行い、付加価値の高い儲かる農業・若者が魅力を感じる新しい農業環境の整備を実践して成功例とすることで、新規就農者の拡大や雇用の創出、既存の稲作中心の農業からの脱却、加工品への展開、他の町有未利用

地等での事業展開などを狙っています。また、佐用高校等研修・実習事業や佐用いきいき帰農塾の開催を通じて就農人材の育成・確保、就農・帰農の機運醸成を行い、供給不足となっている地域特産品等の確保につなげるとともに、地域資源の育成・強化を行って、生産者・販売者等の所得増加、森林資源の有効活用等につなげていきたいと考えています。このように、農林業を中心とした就農人材と地域資源の育成・強化を総合的に図り、本町の産業振興・定住促進等を推進していきたいと考えています。

なお、地方創生推進交付金を活用した当事業は、平成 28 年度から平成 30 年度までを期間とする 3 ヶ年度の事業となっています。平成 29 年度・30 年度には下記の事業を実施していきます。

(平成 29 年度・30 年度に当交付金を活用して実施する事業)

- ◇佐用まなび舎農園人材雇用・販売管理業務等に対する補助
- ◇佐用高校等研修・実習事業の実施
- ◇就農人材等育成・研修（佐用いきいき帰農塾）の開催
- ◇販売拠点施設を活用した着地型買い物・観光ツアーの実施
- ◇販売拠点施設と連携した新しい観光集客イベント（いなちくロングライド）の実施
- ◇森林資源活用事業に対する補助

【平成 28 年度分の事業の内容、実施結果等】

○佐用まなび舎農園の加工品製造のためのイニシャルコストを支援

次世代農業モデルプラント「佐用まなび舎農園」における加工品（ストレートトマトジュース）製造用機器の導入を支援しました。具体的には、大型ジューサー・回転式蒸気釜・消毒殺菌庫・半自動打栓機・選果機等の導入費用 26,584 千円に対して、2 分の 1（上限 10,000 千円）を支援したものです。

製造したストレートトマトジュースについては、阪神間の百貨店等において販売されています。また、町内では道の駅宿場町平福で販売されているとともに、南光ひまわり館においてはギフトセットの取扱いも始まっています。



加工品製造用機器



夢茜ストレートトマトジュース